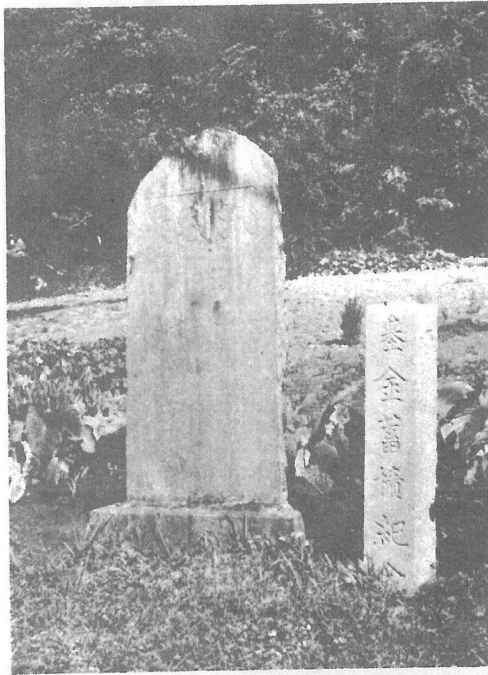


横芝の碑 (その十五)

基金記念と汎利衆の篆額

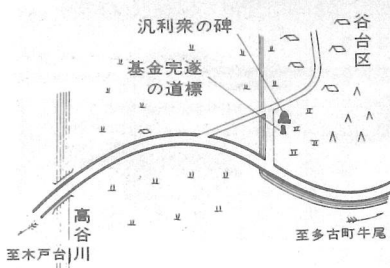
多古街道が木戸台の背中を迂回すると田圃の向うに谷台の丘が見え始め、その下には人家や森が寄り添う様に立ち並んでいます。これが谷台の集落です。奇麗に舗装された街道は、鋼の帯の様な軌跡を画きながら谷台の丘を廻って多古町牛尾に通じています。

谷台の丘が目の前に接つてくると左に入る砂利道があります。これが谷台区への入口です。この入口は二本あって約二十メートル位で一緒に、その角の道端に二基の碑が建っています。花崗岩の道標と土地改良の竣工記念碑ですが、この標字や篆額が珍しいの



で足を止めて見ました。私が見かけた道標は大いなる参拝記念とか、区または青年団等の奉仕でしたがこの道標は、消防組の人々が望楼か機庫等の設備基金を蓄めていたのが完遂された記念らしく表には基金蓄積記念という文字が刻まれその脇には木戸台、右側には荒井渡し、八日市場方面、左側には牛尾、船越、多古通、裏面には大総村消防組第十一部とそれぞれ刻まれています。建立の年月は刻まれていませんが、消防組第何部という呼称や荒井渡し等という文字にも昔の息吹を感じます。その道標と並んで建っている碑が土地改

良竣工の碑で、篆額には汎利衆と刻まれています。建立は明治四十五年のもので碑文其他によりますと、昔、この辺りは平坦な耕地で一見良田に見えながら、排水状況が悪く、毎年梅雨期になると殆んど田圃は水に没してしましました。都度高谷川の堰から足踏式の水車で排水作業を行いましたが降りつづく雨の中の人力には限りがあり、稲苗は水中で腐ってしまったり、生育が止つたり枯れたりという年が多かつたようです。明治四十四年の二月頃耕地整理の話がもち上り、県会議員や村長さんを勤められたことのある行方哲次さんという方を中心組合が結成され、県の六城技手や山本技手の指導で、十二月八日起工、翌四十五年の三月に完工、毎年湛水に悩まされた三十町歩の水田は、二毛作さえてできる様になった、ということ。明治四十四年といえば農方も幼稚であつたろうと思



います。当時まだ小学校の四年か五年生であつたという或古老の方は、こんな話をしてくれました。「牛や馬を使って田畑を耕す、ということとは学校の掛図で見える位のもので、この辺では見かけませんでした。土地改良の道具は県の役人が持つて来てくれた測量機の外は鋤、鍬、鎌、万能と言つた物で土を運ぶのには馬車が一台来ていましたが、その外は手引きの荷車とモッコという藁で作つた籠の様なものを天秤棒で擔いだものですが、それでも「田圃が水を冠らなくなる」というので、皆一生懸命でした。私も小学校の四年生か五年生でしたが、父のかわり鍬を持つて手伝いに出かけたことを覚えています。ですから工事が終つた時の皆の喜び様は大変なものでした。あの石に彫り付けてある題字も、県知事さんが汎く大ぜいの人の利益という意味を書いてくれたということ。耕地は平均一反歩に区切られましたが、畦畔の関係で少しは異つたところもありました。」と凡そそういうことでした。写真は、その碑で、右手の角柱が基金蓄積記念の道標で、左手の碑が土地改良竣工記念のもので、篆額には汎利衆、と刻まれ碑文には、

谷台区在於大総村北部小丘之麓而家五十二人口一百七十二東里道及丘北帯之地香取郡東条村南北谷有水田高谷川擁其西南界牛熊木戸台二区西北隔畦畔接二川村而耕地傾斜無水利每年五月際高谷川為堰以湛水用水車導之故徒費人力不勤而沿岸稻田悉沒水中腐爛不產育区民概之也及矣明治四十四年二月在耕地整理之諮詢之於當路則村会先獎勵官亦贊焉共附与資金若干置組合選役員據農技手六城雅信山本憲設計鑿渠通阡陌設閘門築堤塘於是良田三十町灌溉排水莫不如意自今而後可施馬耕以減勞苦為二毛作以增收穫而庶無有水害耕渠延長一千九百七十四閘門閘四節而費資一千四百八十五円昨年十二月八日起工今茲三月三十一日全竣功焉區民之喜可知也及欲勸事由於石以貼後混委員長行方氏需余文与氏有舊誼不可辭聊記梗概云爾。明治四十五年、千葉県知事正五位勲三等、告森良、篆額、千葉県立成東中学校教諭三輪環、撰併書、と刻まれています。多古街道に幻惑されて見失いそうな谷台入口の里道に建っている二基の碑には、それぞれの歴史があり、想い出もあると思います。汎利衆と良田確保に無条件で喜び合つた先代が、先々代が、鍬や万能の人力で作らげた耕地の成果を、又粒々辛苦、ようやく蓄積を果した消防設備基金の完遂を、永く後世に伝えようとして建てたであろうその碑を、いま一度改めて見つめるのも無駄でないと思ひます。

(給食センター小沢所長寄稿)